

## 令和7年度 緑区地域課題チャレンジ提案事業 採択事業一覧

	提案団体	補助額 (千円)	新・継	コース (継続年数)	事業名	事業内容
1	昭年探偵団	13	新規	はじめ の一歩	1 戦後生まれが語り継ぐ”昭和の記憶遺産”	戦後80周年の節目を迎え、戦争の体験談や戦後復興の記憶を継承し、平和の尊さを考えるための講座を開催する。
2	なかやまぐるり ゆずりあい会	99	新規	はじめ の一歩	1 子供服メインの交換会 なかやまぐるり ゆずりあい会	子ども服などの交換を通じて地域のつながり、交流を深める。廃棄される衣類等を減らし、資源の有効活用を行う。
3	レオラジオ (LEORADIO)	100	新規	はじめ の一歩	1 リバリバ！リボルブ (River × Rebirth × Revolve)	河川と周辺の森の環境美化を通じて、区内の生態系に关心を持つきっかけをつくるため、清掃・啓発活動、ワークショップを行う。
4	ボランティア「三保ちょい助」	75	新規	はじめ の一歩	1 三保ちょい助プロジェクト	地域住民の「ちょっとしたお困りごと」を解決するため、地域住民がサポーターとして高齢者や体の不自由な方などを支援する。住民同士の交流を深め、住みやすいコミュニティの形成を目指す。
5	国際交流 KAKEHASHI	100	新規	はじめ の一歩	1 外国人と日本人の文化 体験交流ネットワーク	外国人の日本文化体験、交流を通して、外国人と日本人がお互いに尊重し合う多文化共生社会の実現を目指す。
6	NPO法人KUSC	100	新規	はじめ の一歩	1 マルチプレイパーク事 業	運動遊びを通じて、大学、専門家、地域の方々などと連携し、子ども達の心身の健康を促進し、非認知能力やライフスキルも高めるプログラムを提供する。
7	みどりパチパチ 会	50	継続	チャレンジ	3 鍵っ子の居場所づくり	小学生を主対象に、帰宅時の孤独感を和らげ、学習意欲を向上させることを目的として、地区センター等の会議室を利用して、宿題、予習、復習の手伝いをしたり、珠算を教える。

## 令和7年度 緑区地域課題チャレンジ提案事業 採択事業一覧

	提案団体	補助額 (千円)	新・継 続	コ－ス (継続年数)	事業名	事業内容
8	霧が丘MSO研究部	25	継続	チャレンジ 3	老い支度ガイド広報・支援事業	人生100年時代に住みやすい街、福祉の仕組づくりを応援していくため、地域の方向けにエンディングノードなどをテーマにした講座や座談会を、講師と参加者の双方向で実施する。7年度は専門家を招いた講座も企画する。
9	みどり・川と風の会	50	継続	チャレンジ 3	「鴨居 花のプロムナード」の継続と周辺河川敷の清掃・草刈り	鶴見川堤防斜面に植えた芝桜を手入れするとともに、季節の花々を絶え間無く咲かせ、維持管理に努めていく。あわせて河川敷の清掃を行うことによりごみの減量化、河川環境の美化に努める。
10	NPO法人霧が丘ぶらっとほーむ	50	継続	チャレンジ 3	集まれきりっ子♪子どもの地域の居場所創り。	こどもが地域と繋がれる場所、子どもが活躍できる場所になるよう、地域の大人の力を借りて、子どもの居場所創りを行う。
11	地球温暖化問題を身近に考える会	20	継続	チャレンジ 3	地球温暖化問題をもっと身近に	地球温暖化・脱炭素化を身近な問題と考えてもらうため、地球温暖化の状況をわかりやすく解説するとともに、最新の技術動向を紹介する講演会を開催する。
12	青少年みどり遊楽舎	60	継続	チャレンジ 2	間伐材、自然素材を活用して子ども達の創造性と感性を育む	緑区の豊かな自然を活用し、間伐材、自然素材を使用した工作教室、自然観察会等を学校と連携して実施し、子どもたちに自然を体験する学習の場を提供する。
13	緑ふれあいサロン	60	継続	チャレンジ 2	次代の担い手の醸成を図る「緑ふれあいサロン」	「緑ふれあいサロン」で楽しいイベント等を開催し、参加者の「地域ディビュー」を支援し、次世代の担い手を育成する。
14	タニーサロン	70	継続	チャレンジ 2	シニア憩いの場所づくり	グランドゴルフ等を通じた高齢者の健康づくり、交流会を通じた居場所づくりを行う。

## 令和7年度 緑区地域課題チャレンジ提案事業 採択事業一覧

	提案団体	補助額 (千円)	新・継 続	コース (継続年数)	事業名	事業内容
15	珈琲淹れ方研究会	100	新規	チャレンジ	1 玄海田公園コミュニティカフェ エコな場づくり	玄海田公園でコミュニティカフェ開催を通じて、地域住民の交流と環境問題の啓発を行う。活動を通じて次の活動の担い手を育成する。
16	白山緑自治会	100	新規	チャレンジ	1 業務DXによる自治会構造改革	高齢化等により班長の役割ができず、退会する人、自治会活動に魅力を感じず入らない人がでているなか、デジタルツールの導入により、活動の負担軽減、魅力づくりを目指す。